2020年11月25日付
房日新聞寄稿

寄稿

ごあいさつと感謝の言葉

ウガンダ スチュアート・センパラ

ウガンダより、皆さまへごあいさつを送ります。

昨年秋に強大な台風が安房地域を直撃し、大変だった皆さまに心よりお見舞い申し上げます。自然災害の恐ろしさを思い知らされるとともに、皆さまの安全と回復をお祈りしております。

そして現在は、新型コロナウイルスの世界的蔓延（まんえん）により、気を緩めることができない状況が続いています。

多くの方が不安を抱えていますが、世界規模の非常事態をともに乗り越えていくためにも、私たちは前を向かなければなりません。

新型コロナウイルスにより、ウガンダでは他の国と同様にロックダウンの後遺症と厳しい夜間外出の禁止で、多方面で影響をもたらしています。人々は働きに行くことができず、多くの人が生活の糧を稼ぐ手段を失ってしまいました。貧困が増加し、何より心配なのは新型コロナウイルスに感染する前に、弱い立場に置かれている子どもや高齢者が飢餓に陥ってしまうことです。

私たちは食糧や医療ケアなどが、そういった立場の人々に届くようできる限りの支援に努めています。

こうした状況下にもかかわらず、2020年の今年もまた「ウガンダコーヒー月間」キャンペーンが安房で開催されたことを大変うれしく思っています。世界中が10月1日を「国際コーヒーの日」として祝うこの期間、おいしいウガンダコーヒーを市民に広めるキャンペーンに、今年は26店舗が参加したことを、私たちは大変感激しています。

コーヒーを通じて、皆さまからの思いやりあふれる友情と愛を感じています。ウガンダコーヒーが安房地域の皆さんに認められ、愛され、広がり続けることが私たちの願いです。

皆さまのご尽力により、私たちは多様なプロジェクトを前進させ、達成を実現してきました。皆さまからの支援金は、子ども（孤児）たちの教育や生活の支援、そのための移動・運搬にかかわる費用などに使わせていただいています。

遠く離れた学校への送迎、授業料の一部補助、食糧支援、保護者との定期面談、学校給食の支援など、多岐にわたります。また孤児や出稼ぎのために親が不在の子どもが多い地域では、日々の暮らしに精いっぱいで、子どもを取り巻くコミュニティー全体への支援を継続しています。支援を受けた子どもたちは、成長すると率先して小さい子どもたちの世話をしたり、CUFIの活動を手伝ってくれたりしています。とても頼もしいことです。

私たちのためにしてくださった全てに感謝するとともに、新型コロナウイルスの収束を心より願っています。皆さまに神のご加護があるようにと祈念しています。

（ウガンダ意識向上協会＝CUFI＝代表）

寄稿

「ウガンダコーヒー月間」キャンペーンのお礼とご報告

館山 愛沢 伸雄

このたびは、ウガンダ支援金付きコーヒーキャンペーンにご協賛いただき、ありがとうございました。3回目を迎えた今年、ウガンダコーヒーを楽しみにご来店くださるお客さまがいらっしゃったなど、うれしいお声も聞かれ、コーヒーの魅力とともに、コーヒーによる支援の輪が広がっています。皆さまのご尽力で、「10月はウガンダコーヒー」のキャンペーンが安房地域に浸透しつつあることを感じております。

おかげさまで、ウガンダコーヒーの流通による支援金7万4100円と寄付1万9312円が寄せられました。これらは今夏に開催された「安房・平和のための美術展」のチャリティー基金と合わせて、ウガンダ意識向上協会に送らせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の危機に伴い、人びとの生活環境はますます厳しくなっているようです。現地の安房南洋裁学校の運営や子どもたちの教育・生活支援のほか、さまざまな緊急支援にも使われることとなりますので、あらためてお礼とご報告を申し上げます。

また、キャンペーン期間中、安房南洋裁学校の生徒たちがつくった小物入れやエプロンをはじめ、牛の角を素材にした動物ストラップなどを、数店舗で試験的に販売しました。色鮮やかなアフリカ布や小物のかわいさなどが好評を得たため、追加で仕入れを検討しています。入荷次第、通信販売サイト「館山まるごと博物館ショップ」（https://awa-ecom.jp/online-shop/）などで販売予定です。お取り扱いを希望される場合にはご相談いただければ幸いです。

これからも末長く、安房とウガンダの友情が継続しますよう、引き続きご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症の収束と、皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

（NPO法人安房文化遺産フォーラム代表）